第１回 国際洞窟写真家会議参加報告

後藤 聡 (GOTO, Satoshi　東京スペレオクラブ所属　東京都在住)

はじめに

2009 年に米国テキサス州のカービルで行われた国際洞窟学会議において行われた写真コンテストをきっかけに、これまでに洞窟写真をテーマにした会議が行われたことがないので国際洞窟写真家会議を行おうとフランスの Philippe Crochet 氏と米国の Ann Bosted 氏がこの会議をおこなうべく 2010 年に準備を始めていた。私は国際洞窟学会議に写真を出展していたことや Ann 氏と多くの面識があることもあり、2010 年末に、フランスのオラグル (Olargues) で会議を行うのでと Ann 氏を通じて声がかかった。この会議のことを国内の洞窟写真を撮る人や、日本洞窟学会の会員 ML にも情報を流したけれど、結局参加したのは私と洞窟学会員で私と同じケイビングクラブ所属の小林 日との 2 名だけであった。私は洞窟写真家として、小林は私のアシスタントとしての参加である。もっと多くの人に参加してほしいところであった。後述するが、私のアシスタントとしての参加であれば、ある程度の洞窟経験があれば大丈夫だっただけに残念である。今回、洞窟に初めて入る人 (山はやっていたそうであるが) がイタリア人チームのアシスタントとして参加していたのにはさすがに驚いた。

写真１　来場者に紹介されるフォトグラファー達

撮影対象洞窟選定

会議 (2011 年 8 月 14 日 (日) ～ 20 日 (土) 開催) は日曜に三々五々集合し、月曜から金曜までの洞窟の予定の希望を、掲示されたペーパーに書き込むことから始まった。全部で 10 本の洞窟があり、そのうち 5 本の洞窟はオラルグから遠いことやアプローチに難があることから 1 回、もしくは 2 回の入洞日であり、また特別な洞窟でもあるものが多いので、私が着いたときには既に埋まっているものが多かった。残りの 5 本の洞窟はほぼ毎日、開催されていた。

私は初日カブルスピーヌ、2 日目プッスリエ、3 日目 PN77、4 日目エコセ、最終日にクローゼを選定した。最近体力を失っていることから基本的に洞窟までのアプローチが楽そうな穴ばかりを選んだのだけれども、パーキングから洞窟まで徒歩 1 分。おお、これは楽そうだと選んだものが、実は洞口から撮影ポイントまで 100m 以上降りなければならないなど、あまり楽ではなかった。100m 降りると言っても SRT が必要ではなく、固定の梯子やトラバースラインがあるので楽ではあったものの、待ち時間ゼロで常に動き続けるため逆に疲れたかもしれない。そんなこともあり、洞窟に入るとき私は薄手のタイツと T シャツにオーバースーツであったけれども、撮影中は動き続けるので寒さをほとんど感じなかった。